

施策評価シート

評価年度	令和元年度	事業実施年度	平成30年度	施策主管次長名	福祉部次長 岡田 高行		
施策番号	55	施策名	みんなで助け合える福祉のまち			総合計画掲載頁	50
関係課名	長寿介護課、福祉課						

1. 施策の概要

施策の目的	対 象	対象指標名		単位	H29実績	H30計画	H30実績	H31計画	総計目標
		・市民 ・障がい者 ・高齢者	人口	人	61,070	61,356	61,153	61,604	-
			障がい者の数	人	2,122	2,130	2,154	2,170	-
			高齢者の数	人	10,588	10,715	10,841	10,897	-
	意 図	障がい者や高齢者が安心して、住み慣れた地域で支え合う生活をしてもらう		成果指標名	ボランティア登録者数				
					市内の障がい者施設利用者数				
					自立支援給付の受給率				
					いきいきクラブに加入している市民の数				

2. 成果指標

指標	成果指標名	単位	H29計画	H29実績	H30計画	H30実績	H31計画	総計目標
	ボランティア登録者数	人	2,910	2,938	3,400	3,226	3,250	3,400
	指標設定の考え方と把握方法							
指標	成果指標名	単位	H29計画	H29実績	H30計画	H30実績	H31計画	総計目標
	市内の障がい者施設利用者数	人	127	124	127	138	139	-
	指標設定の考え方と把握方法							
指標	成果指標名	単位	H29計画	H29実績	H30計画	H30実績	H31計画	総計目標
	自立支援給付の受給率	%	18.5	19.8	19.8	20.7	20.7	-
	指標設定の考え方と把握方法							
指標	成果指標名	単位	H29計画	H29実績	H30計画	H30実績	H31計画	総計目標
	いきいきクラブに加入している市民の数	人	3,450	3,390	3,310	3,137	3,153	5,000
	指標設定の考え方と把握方法							

3. 施策の評価

項目		評価のコメント				
施策の成果向上に向けての市民と行政の役割分担	市民	・障がい特性を理解し、互いに支え合う意識の向上と、障がい者自身にも地域社会への自発的な参加を促す。 ・高齢者の孤立化を防ぐため、地域での見守り体制を整える。				
	行政	・ボランティア育成や活動しやすい環境づくり、障がい者支援のための環境整備を行う。 ・高齢者の社会参加のための環境整備、健康維持、支援のための人材確保及び育成を行う。				
達成度評価	近隣との比較	本市のボランティア登録率(登録者数/人口)のH30年度実績は5.3%で、近隣10市との比較(高い順)では、1位の刈谷市7.4%、2位の知立市5.6%に次いで3位。 障がい者施設利用者は、近隣10市では人数把握を行っていないので、比較できない。 自立支援給付受給率のH30年度実績は20.7%で、近隣10市で把握している市(岡崎、碧南、豊田、安城)との比較(高い順)では、2位。1位は碧南市20.8%。 いきいきクラブの加入率(クラブ加入数/60歳以上人口)のH29年度実績は、24.60%で近隣11市との比較(高い順)では、3位の西尾市25.90%について4位。1位は碧南市35.10%(参考:愛知県老人クラブ連合会「市町村老連別老人クラブ加入率」)				
	過去3年間の実績との比較	ボランティア登録者数のH30実績は3,226人で、H27以降は増加傾向。[H27: 2,774人、H28: 2,896人、H29: 2,938人] 障がい者施設利用者のH30実績は138人で、増加傾向。[H27: 116人、H28: 126人、H29: 124人] 自立支援給付受給率のH30実績は20.7%で、増加傾向。[H27: 18.1%、H28: 18.5%、H29: 19.8%] いきいきクラブの加入者数のH30実績は3,137人で、減少傾向。[H27:3,632人、H28:3,528人、H29:3,390人]				
現状と課題		・市ボランティアセンター登録者が更に増加するよう、社会福祉協議会と連携してボランティアの底辺拡大に繋がる効果的な事業の在り方(環境づくり)を検討する必要がある。 ・障がいの種別や障がい者の望むサービスが多様で、対応できる事業者や施設が不足している。また、障がい者の年齢層が上がるに伴い、親亡き後の生活支援施設(グループホームなど)が不足し、その整備が必要である。 ・高齢者数の増加とともに、要介護認定者数や認知症や認知症のおそれのある人が増加しているため、高齢者を地域で支える体制づくりとしても地域包括ケアシステムの早期の構築が必要である。				
課題を踏まえた今後の取組の方向性		(今後の取組の方向性) ・障がい者当事者団体とボランティア団体の交流の機会を設け各団体活動の拡充を図る。 ・障がいのある方も健常の方も普通に暮らせる地域づくりを目的とした「みよし市障がい者自立支援協議会」を中心に、問題提起や取り組みに対する新たな提案、情報の共有化など、障がい者、事業所、行政間の連携、協力、支援体制の向上を図る。 ・障がい者の実態とニーズを把握し、不足する社会資源の充実を図る。 ・平成31年度に旧デイサービスセンターの改修工事を実施し、令和2年度に障がい者福祉センターを移転する。 令和2年度に権利擁護支援センターを設置する。 ・「地域」が持つべき機能や果たすべき役割を考え、自分(家族)でできることは自分(家族)で行う「自助」、互いに助け合えることは助け合う「互助」の力を発揮し、「共助」、「公助」によるサービスを充実させる。				
市民意識	重要度	高い	満足度	低い	平成30年度市民アンケート調査による	